

課題の3 遮熱ビニールを利用したトルコギキョウの品種比較調査（新規）

夏場のハウス内の高温対策として、屋根部の遮熱資材（寒冷紗等）での被覆や屋根ビニールへの遮熱剤の塗布が一般的である。

しかし、これらは手間がかかるため、手軽な高温対策として期待できる遮熱ビニールを張ったハウスでのトルコギキョウの生育について調査を行い、今後の栽培普及の資料とする。



1 調査内容

- (1) 栽培環境：ビニールパイプハウス 40坪（4間×10間）を使用
（サイド及び前後ドアに赤色0.6mm目防虫ネットを使用）

調査区分	屋根部ビニール	備考
調査区	遮熱POフィルム（厚さ0.1mm）	屋根のみ使用
対照区	通常POフィルム（厚さ0.1mm）	

※遮熱フィルムの特徴：フィルムに赤外線を反射させる物質が練りこまれており、ハウス内に入る赤外線の量を抑えることにより、ハウス内温度を抑制する効果があるほか、保温効果もある。

- (2) 供試品種

品 種	種苗メーカー	早晩性	花色・花形
ベール3型ラベンダー	タキイ種苗	中晩生	ラベンダー・大輪八重
ソロブルーピコティ	サカタのタネ	中晩生	紫覆輪・小輪一重
フィーノライトピンク	カネコ種苗	中晩生	薄ピンク・中小輪八重
ラルゴピーチ	ミヨシ	晩生	桃覆輪・大輪八重
ダブルスノー	サカタのタネ	中晩生	白・中小輪八重
ボヤージュ2型ブルー-ver.2	サカタのタネ	中生	紫・大輪八重

※早晩性及び花色・花形はメーカーカタログ記載内容

- (3) 調査項目：ハウス内温度、生育状況、採花期、切花品質
※屋根資材の違いによるハウス内温度を記録するため、定植から栽培終了まで屋根部に寒冷紗等をかけなかった。

- (4) 耕種概要

- ①播 種：4月26日（種子冷蔵処理無し）
- ②定 植：6月21日
- ③栽植様式：畝幅120cm（床幅60cm）、12cm5目フラワーネット使用、4条植、白黒マルチ使用、かん水チューブ使用、

栽植本数 3,300 本/a

④施肥量：N：P：K=0.9：0.9：1.2kg/a

※土壌分析結果を基に算出

※青森県花き栽培の手引き N：P：K=各 0.5~1.0kg/a

2 調査結果

(1) ハウス内温度

定植翌日から採花終了の9月11日までの82日間、ハウス内温度を30分おきに記録し、日平均温度、日最高温度、日最低温度を図1、図2、図3に示し、栽培期間全体の温度比較を表1に示した。

日平均温度では、調査区（遮熱POフィルム）が対照区（通常POフィルム）よりも低い日が多く、栽培期間全体で0.6℃低かった。

日最高気温は、調査区のほうが対照区よりも低い日が多く、栽培期間全体の平均で1.0℃低かった。

日最低気温は、調査区のほうが対照区よりも若干低い日が多かったが、大きな温度差ではなく、栽培期間全体の平均で0.4℃低い結果となった。

図1 温度の比較（日平均温度）

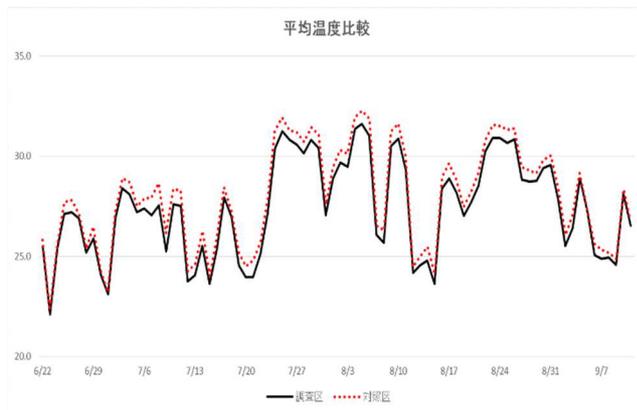


図2 温度の比較（日最高温度）

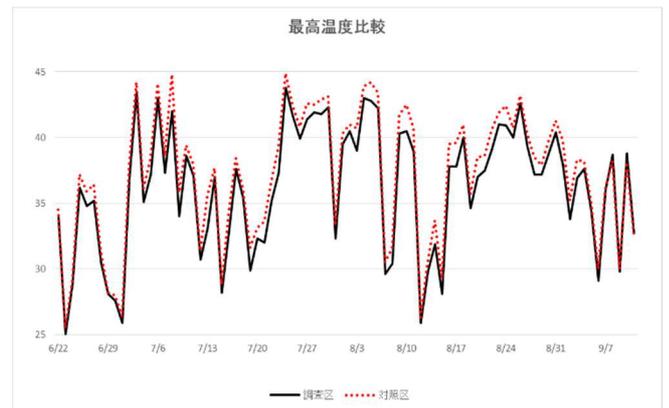


図3 温度の比較（日最低温度）

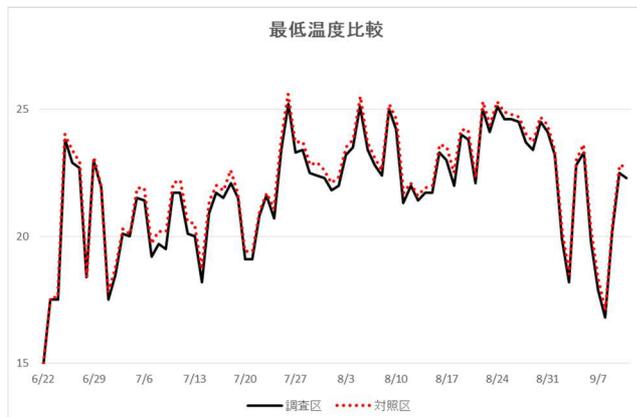


表 1 栽培期間全体の温度比較

	調査区	対照区	温度差（調査区-対照区）
平均温度	27.4℃	28.0℃	▲0.6℃
最高温度	36.2℃	37.2℃	▲1.0℃
最低温度	21.7℃	22.1℃	▲0.4℃

(2) 生育状況

定植から33日経過した7月24日以降、1週間おきに行った草丈及び節数の調査結果を、表2、表3に示した。

8月28日時点の草丈はパール3型ラベンダー、フィーノライトピンク、ラルゴピーチについては調査区（遮熱POフィルム）のほうが1.2~9.3cm高かった。ソロブルーピコティ、ダブルスノー、ボヤージュ2型ブルー-ver.2については対照区のほうが1.4~5.6cm高かった。

節数は両区の差がほとんどなかった。

病害については、発生は見られなかったが、予防のために防除を行った。

虫害については、0.6mm目の防虫ネットをハウス開口部に張っていたが、完全には防ぐことができず、ヨトウムシやオオタバコガによる葉の食害が散見されたため適宜薬剤散布を行ったことで、大きな被害には至らなかった。また、花蕾にタバコガ類による食入孔が確認されたが、採花期であったため薬剤散布は行わず捕殺した。（薬剤散布状況は表4参照）

表 2 生育状況（草丈）

（単位：cm）

品種	調査日	7/24	7/31	8/7	8/14	8/20	8/28
パール3型 ラベンダー	調査区	16.1	22.8	38.6	51.1	60.3	71.4
	対照区	14.2	20.6	34.7	49.0	59.1	70.2
ソロブルー ピコティ	調査区	15.5	20.1	33.0	45.2	54.2	63.2
	対照区	17.1	24.6	38.8	52.0	59.6	68.8
フィーノ ライトピンク	調査区	13.0	17.9	30.6	43.1	51.6	57.4
	対照区	12.8	17.8	29.1	39.7	46.4	50.3
ラルゴ ピーチ	調査区	18.9	30.4	46.7	61.0	70.7	78.2
	対照区	14.6	20.5	33.7	48.7	58.7	68.9
ダブル スノー	調査区	16.9	21.5	35.5	48.4	56.9	65.2
	対照区	18.5	24.8	39.0	50.9	59.1	66.6
ボヤージュ2型 ブルー-ver.2	調査区	15.2	20.5	32.2	39.9	44.2	59.0
	対照区	19.0	28.9	43.2	53.1	58.3	61.0

表3 生育状況（節数）

品種	調査日	7/24	7/31
ベール3型 ラベンダー	調査区	5.3	7.2
	対照区	5.6	7.4
ソロブルー ピコティ	調査区	5.8	6.9
	対照区	6.1	7.3
フィーノ ライトピンク	調査区	5.0	5.9
	対照区	5.1	6.2
ラルゴ ピーチ	調査区	6.3	7.7
	対照区	6.2	7.2
ダブル スノー	調査区	6.2	7.4
	対照区	6.4	7.7
ポヤージュ2型 ブルーver.2	調査区	5.8	6.7
	対照区	6.1	7.3

※各品種ともに10株の平均値である

※節数は7/31以降に発蕾が確認されたため調査を終了した

表4 薬剤散布状況

散布月	殺菌剤（成分）	殺虫剤（成分）	対象病害虫
6月	1回 （トルコホムメチル）	2回 （アゼフェート、ハ°ルメトリソ）	立枯、ハク°リハ°I、ネリムシ
7月	1回 （ハ°ンチヒ°ラ°）	1回 （BT）	灰色カ°、ヨウムシ
8月	1回 （キャブ°タソ）	3回 （BT、ハ°ルメトリソ）	立枯、ヨウムシ、カ°コガ°

(3) 採花状況

採花状況については表 5 に示した。発蕾は品種間で差はなかった。

採花期間はソロブルーピコティ、フィーノライトピンクでは差がなかったが、ベール 3 型ラベンダー、ラルゴピーチ、ダブルスノーでは 2 日、ポヤージュ 2 型ブルー-ver.2 では 5 日調査区のほうが遅くなった。

盛期はソロブルーピコティ、フィーノライトピンクでは差がなかったが、ベール 3 型ラベンダー、ラルゴピーチ、ダブルスノーでは 5 日、ポヤージュ 2 型ブルー-ver.2 では 2 日調査区のほうが遅くなった。

表 5 採花状況

品種	区分	発蕾	採花期間	盛期
ベール 3 型 ラベンダー	調査区	7/31	8/31~9/14 (15 日)	9/5
	対照区	7/31	8/29~9/12 (15 日)	8/31
ソロブルー ピコティ	調査区	7/31	9/4~9/12 (9 日)	9/7
	対照区	7/31	9/4~9/12 (9 日)	9/7
フィーノ ライトピンク	調査区	7/31	8/31~9/12 (13 日)	9/7
	対照区	7/31	8/31~9/12 (13 日)	9/7
ラルゴ ピーチ	調査区	7/26	8/31~9/14 (15 日)	9/5
	対照区	7/26	8/29~9/12 (15 日)	8/31
ダブル スノー	調査区	7/31	8/31~9/7 (8 日)	9/5
	対照区	7/31	8/29~9/5 (8 日)	8/31
ポヤージュ 2 型 ブルー-ver.2	調査区	7/24	8/29~9/5 (8 日)	8/31
	対照区	7/24	8/24~8/31 (8 日)	8/29

※盛期は全体の半分を採花した時とした

開花状況（撮影日：令和 5 年 8 月 29 日）



調査区（遮熱POフィルム）



対照区（通常POフィルム）

(4) 切花品質

切花品質については表 6 に示した。

切花長において、すべての品種で調査区（遮熱 PO フィルム）が 3～5cm 長い結果となった。茎径、調整重においてはすべての品種で調査区のほうが良い結果となった。有効花蕾数ではすべての品種において大きな差はなく、有効開花数ではベール 3 型ラベンダー、フィーノライトピンク、ダブルスノー、ポヤージュ 2 型ブルー-ver.2 で調査区のほう多い結果となった。

表 6 切花品質

品種	区分	切花長 (cm)	有効 花蕾数	有効 開花数	茎径 (mm)	調製重 (g)	採花時 節数	比較割合 (調査区/ 対照区)
ベール 3 型 ラベンダー	調査区	80.1	3.3	9.0	5.6	58.2	8.0	切花長：103%
	対照区	77.4	3.4	7.2	5.5	54.3	7.9	調製重：107%
ソロブルー ピコティ	調査区	74.2	5.7	12.9	4.7	75.9	8.0	切花長：107%
	対照区	69.2	4.9	15.6	4.4	63.2	7.5	調製重：120%
フィーノ ライトピンク	調査区	55.8	3.8	9.2	5.3	47.6	6.7	切花長：106%
	対照区	52.5	3.2	6.7	5.1	42.5	6.5	調製重：112%
ラルゴ ピーチ	調査区	80.6	4.2	4.5	6.4	62.8	8.8	切花長：106%
	対照区	75.9	4.0	4.0	5.3	46.7	8.5	調製重：134%
ダブル スノー	調査区	68.6	2.7	8.7	4.6	46.2	7.9	切花長：100%
	対照区	68.6	1.5	7.8	4.6	44.5	7.8	調製重：103%
ポヤージュ 2 型 ブルー-ver.2	調査区	62.0	3.3	5.3	5.1	41.6	6.3	切花長：104%
	対照区	59.9	3.5	4.9	5.1	34.5	6.0	調製重：121%

※ 各品種ともに 10 株の平均値である

※ 有効花蕾数とは 20 mm 以上の花蕾数

※ 有効開花数とは開花から日数が経過して品質低下の恐れのある花を除いた花数

※ 調製重とは出荷規格に切りそろえたあと、下葉を 15 cm 程度取り除き、開花及び着蕾を調製した後の重さ

※ 採花時節数とは切り口から止葉節までの節数（止葉節も含む）

※ 規格 2L：80 cm L：70 cm M：60 cm S：50 cm（県経済連花き出荷規格）

(5) 採花・出荷率状況

採花・出荷率状況については表 7 に示した。

採花率において、すべての品種で調査区のほうが良い結果となった。出荷率においては調査区・対照区の比較はできなかったが、ベール 3 型ラベンダー、ソロブルーピコティ、ラルゴピーチにおいて 80% を超える結果となった。フィーノライトピンク、ダブルスノー、ポヤージュ 2 型ブルー-ver.2 においては 62.7～76.9% と他の 3 品種に比べて低い結果となった。

表 7 採花・出荷率状況

品種	区分	採花率 (%)	出荷率 (%)
パール3型 ラベンダー	調査区	92.6	83.9
	対照区	89.7	
ソロブルー ピコティ	調査区	97.7	91.4
	対照区	95.7	
フィーノ ライトピンク	調査区	96.4	62.7
	対照区	85.7	
ラルゴ ピーチ	調査区	92.3	87.0
	対照区	84.6	
ダブル スノー	調査区	91.7	76.9
	対照区	88.9	
ボヤージュ2型 ブルー-ver.2	調査区	95.6	70.0
	対照区	92.5	

※採花率：採花本数 / 定植本数×100

※出荷率：切花長 50cm 以上の本数 / 採花本数×100

3 まとめ

ビニールハウスの遮熱 PO フィルムは屋根部のみで、ハウス内の温度を下げる事ができ、ハウス内での管理作業時には両区の温度差を体感することができた。発蕾は差がなかったが、採花期間・盛期では調査区（遮熱 PO フィルム）のほうがすべての品種に遅れが生じたので、調査区においては平均気温の低下により生育日数がかかることを考慮し、採花までの日数を調整する必要がある。切花品質では、調査区の方が対照区（通常 PO フィルム）より良い結果となった。採花率では、調査区の方が対照区より良い結果となった。出荷率では、フィーノライトピンク、ダブルスノー、ボヤージュ 2 型ブルー-ver.2 が切花長 50cm に満たないものが多かったので低い結果となった。